

令和5年度第3回さいたま市社会教育委員会議 次第
(第12期第2回会議)

日時：令和6年1月29日（月）
15時00分から
会場：市役所別館2階
第6委員会室

1 開 会

2 挨拶

3 議 事

(1) 前回会議について

(2) 第12期さいたま市社会教育委員会議の協議内容について

4 連 絡

5 閉 会

令和5年度第3回(第12期第2回)さいたま市社会教育委員会議 出席者名簿

No.	氏名	選出母体等	備考
1	石川 敬史	十文字学園女子大学准教授	副議長
2	石崎 敬吾	さいたま市中学校長会	欠席
3	井上 久雄	青少年育成さいたま市民会議副会長	
4	今川 夏如	さいたま市PTA協議会副会長	
5	加藤 美幸	十文字学園女子大学学修支援員	
6	小林 玲子	公民館運営審議会委員	
7	佐野 操	埼玉県家庭教育アドバイザー	
8	澁谷 知範	公募委員	
9	関根 広美	特定非営利活動法人さいたまNPOセンター 専任委員	
10	鶴ヶ谷 柊子	浦和大学講師	
11	永井 正	(公財)さいたま市スポーツ協会専務理事	
12	林 弘樹	映画監督	欠席
13	藤田 成司	さいたま市立小学校校長会	
14	吉沢 浩之	さいたま商工会議所常務理事	
15	若原 幸範	聖学院大学准教授	議長

(50音順)

(事務局)

1	辻 美由紀	教育委員会事務局生涯学習部長
2	辰市 健太郎	教育委員会事務局生涯学習部生涯学習振興課長
3	田原 佑介	教育委員会事務局生涯学習部生涯学習振興課副参事
4	石田 悦子	教育委員会事務局生涯学習部生涯学習振興課長補佐兼企画振興係長
5	伊藤 智美	教育委員会事務局生涯学習部生涯学習振興課企画振興係主査
6	清宮 雅貴	教育委員会事務局生涯学習部生涯学習振興課企画振興係主任
7	中村 和哉	教育委員会生涯学習総合センター参事兼副館長
8	中島 孝一	教育委員会中央図書館資料サービス課長

令和5年度第2回（第12期第1回）さいたま市社会教育委員会議 会議録

開催日時：令和5年11月20日（月）10時00分～11時30分

開催場所：別館2階 第4委員会室

出席者名：【委員】若原 幸範議長、石川 敬史副議長、石崎 敬吾委員、
今川 夏如委員、加藤 美幸委員、佐野 操委員、
澁谷 知範委員、関根 広美委員、永井 正委員、
藤田 成司委員、吉沢 浩之委員

【事務局】（教育長） 竹居 秀子
（生涯学習部） 辻 美由紀
（生涯学習振興課）辰市 健太朗、田原 佑介、石田 悦子、
伊藤 智美、清宮 雅貴
（生涯学習総合センター）中村 和哉
（資料サービス課）野村 明子

欠席者名：井上 久雄委員、小林 玲子委員、鶴ヶ谷 柊子委員、林 弘樹委員

公開・非公開の別：公開

傍聴人の数：なし

1 開 会

2 委嘱状交付

3 挨拶

挨拶後、教育長は公務のため退出した。

4 正副議長選出

委員より、議長に若原委員、副議長に石川委員の推薦があり、承認された。

5 議 事

(1) 社会教育委員会議及び生涯学習ビジョンの概要について

さいたま市社会教育委員会議及びさいたま市生涯学習ビジョンの概要について、資料1に基づき説明した。

(2) 第11期さいたま市社会教育委員会議の提言について

第11期さいたま市社会教育委員会議の提言の内容について資料2に基づき説明した。

【意見・質疑応答】

<議 長>

本提言の作成には2年をかけ、委員の皆様には定例の会議以外にも集まっていたり、くなど本当に熱心にご議論いただきました。ワークショップでも多くの方にご報告いただき、事務局の尽力もあり形とすることができました。第11期の議長として改め

て感謝申し上げます。

<加藤委員>

改めてご説明を伺い、とても良いまとめができたという感想を持ちました。提言の内容は多岐に渡りますが、ぜひ教育委員会が音頭を取り、実現に向けて働きかけていただきたい。

<副議長>

ワークショップの記録が非常に具体的で、委員が活発に議論されたことが伝わってきました。社会教育委員会では以前からこのようにワークショップが行われ、様々な現場の方とアクティブな意見交換が積み重ねられているのでしょうか。

<事務局>

協議テーマはもちろん、協議の方法も含め、基本的に1期2年間の進め方は委員の話し合いの中でご議論いただいています。

以前は事務局で資料を作りそれに対して意見をもらうやり方もありましたが、近年は様々な学習現場に赴いたり、逆に学習活動をされている方に来てもらったり、また委員の皆様からも意見を出しやすいよう、ワークショップを含めて様々な方法を模索しています。

(3) 第12期さいたま市社会教育委員会協議内容について

第12期さいたま市社会教育委員会協議において協議する内容について、資料3に基づき事務局案を提示した。

<関根委員>

近頃市等で行われる講座を見ても、割と高齢者には手厚い気がしています。

一方で子育て中や働いている方などは、なかなか地域とのつながりも作りにくいので、働く世代の方に対してアプローチは必要だと思っています。

どうすればこの人たちに届くのかは重要な課題ですので、ぜひ進めていただきたい。

<議長>

高齢者の元気づくりは社会教育の大きな課題ですが、様々なアプローチがすでにされている分野でもあります。一方、若い世代がどう生涯学習や、まちづくりに関わっていくのかは非常に難しい課題であり、取組みが十分に進んでいないことは第11期の提言づくりの中でも議論されました。そこに今期は取組みたいという提案です。

<佐野委員>

土・日の講座に親の学習ファシリテーターとして参加すると、平日仕事をしている保護者、特に父親の参加が最近多くなったと感じます。今回の提言で挙げられた内容にも、既に定着しつつある部分があります。

小学校のチャレンジスクールに参加してみると、校長をはじめとした地域の方々が自分の培ってきたものを子どもたちに伝えていくということが、私が住んでいる地域では素晴らしく定着しています。

私の活動するお囃子の会でも、今年は高校1年生の若い子がとてもバリアフリーな感じに入ってきてくれました。小学生のころからチャレンジスクール等地域の場において、地域の方々に見守られて育ってきている意識と、地域に目を向けるという視点を持ち、郷土芸能に参加してくれる若い世代がいるようです。教育委員会の努力もあり、生涯学習ビジョンの理念は確実に動き始めていると感じます。

またボランティア団体として公民館文化祭に参加する機会もありますが、地域の方が触れ合ったり、子どもたちがお年寄りの作っているものを見て世代間交流したりするなど、つながりづくりが一步ずつ着実に歩んでいると感じます。

ただ、「働く世代」の30代40代の方がつながっていくためにはどうすればいいか、自分の娘が今働きながら子育てをしているのもあり、課題に感じていました。

なので、働く世代の市民が生涯学習に参加しやすくなるためにはということは、素晴らしいテーマとなると思います。

<議長>

働く世代の生涯学習は大きな課題ですが、すでに蓄積がある分野も出てきているようです。私自身も幼稚園児の子どもがおり、子育て関係の公民館講座等に参加することがありますが、思った以上に若いお父さんが参加しているのが見受けられます。そういう意味で関心は高まってきており、子育てのように先行した分野もあります。

この後、ワークショップや視察などを通してそのような分野に学びながら、つながりをどう広げていくのかは重要な課題となるでしょう。

<澁谷委員>

まず、1点目。「働く世代の市民に生涯学習を届けるために」というテーマは私自身もその世代の1人としてとても興味を持ちました。

昨日、家族に「明日、社会教育委員会議に出る」という話をしたのですが、生涯学習について聞いてみると、「育児・家事等に忙しく、新しく何かを始めるのは難しい」と言われました。

現代人が様々な役割を持ち、その優先順位を設定する中で、生涯学習という分野は抜け落ちてしまいがちです。しかし佐野委員のおっしゃるように、ライフステージの中で社会や生涯学習とつながる機会はきっと訪れますので、その間口をどうすれば広げられるだろうかと思いました。

私自身も子どもを通して地域とつながる部分がありますが、そのつながりを広げるためにはどうしたらいいか。あるいはもし子どもがいなかったとしても、どのようにつながりをもつことができるだろうか。生涯学習を通じた地域とのつながりについて、深めていくことができればと思います。

2点目として、既に生涯学習の意識が高い方々へのヒアリングも非常に有効ですが、学習活動に参加していない人や、今まで興味がなかったが新しく学習活動に参加し

てみたという人に、その参加したきっかけを聞いて、議論を広げていくのも良いのではないのでしょうか。

3点目。今回のテーマを第11期社会教育委員会議の提言とよりリンクする形で検討が進められると良いと思います。こちらは素晴らしい提言で共感する部分も多いのですが、実現するための評価指標や達成目標がもう少し具体化されると良いと感じます。

例えば「働く世代の市民に生涯学習を届けるために」というテーマに対し、さいたま市民の働く世代のうちの何割が、どういうイメージで生涯学習に関わっていく像が理想的なのか。生涯学習ビジョン実現のマイルストーンを示せないのでしょうか。

<議長>

今の社会状況で、どうしても自分の生活で精一杯になっている人が多く、学ぶことの優先順位が低くなってしまふ。我々としてはそういう人にこそ学びに触れて欲しいのですが、そのきっかけをどのように作るか。実際にきっかけを掴んだ人に聞くのも有効だと思います。

また、評価指標や達成目標の明確化は大事なことです。将来、新しい生涯学習ビジョンを策定することに向けた提言も今回意識して取組むのも良いかもしれません

<今川委員>

私もこの「働く世代の市民に生涯学習を届けるために」というテーマに大きな方向性では賛成なのですが、一部に違和感がありました。

委員の皆様のお話を聞いて気づいたのが、生涯学習が働く世代とは別の場所に存在している印象を受けるのではないかということです。私自身の理解では、生涯学習とは生き方そのものだと思っています。働く世代の人たちは必ずしも生涯学習と遠い場所にいるわけではなくて、例えば私の参加するNPOの活動では様々な世代の人たちが自身の持つ知識や経験を持ち寄って、個人の成長・輪の成長・まちの成長につながる活躍をしています。普段の活動にプラスして新しく生涯学習をやって欲しいという話ではなく、働く世代の人たちが自身の経験を通して、どう生涯学習に結びつくのが大事なのではないのでしょうか。

働く世代が仕事や子育てなど様々なことに取組むことは自分自身の成長につながっていて、それが個人だけではなく例えばPTAのように社会と一緒に取組んでいる人たちにつながる。ただし、現状そのつながりが少し薄いようには感じています。「届く」というのは、自分がそれで成長している、社会のためになっている、それがまちづくりにつながる実感を持つことではないのでしょうか。

必ずしも働く世代が生涯学習に携わってないのではなく、生涯学習は生き方そのものだと思うので、どうやってその中に自分たちがいることを実感してもらうかということが「届ける」ことだという印象を持ちました。

例えば私の住む近隣の小学校では星空観測会があり、400人規模の学校なのに250人ぐらいの参加があるそうです。なぜそんなに参加率がいいのかというと、望遠鏡を何台も持ち込んでくれるような熱意を持ったコアとなる方がいて、それをつなぐ地域

の方々がいて、それに対して理解するPTAの方々などが上手に連携している姿がありました。

他にもそういった取組みはたくさんありますが、成功した事例に共通しているのは、参画者が自分自身の能力で活躍できていることと、例えば子どもたちのためになるとか、社会のためになるとかの循環を当事者が実感していることです。それは誰かから「届けて」もらったことではなく、その場で生まれたものだという印象があります。

そこが気になるので、「生涯学習を持ってない人たちにそれを渡そうよ」みたいな方向性だと理想が空回りしてしまう気がします。今、自分の生活を成り立たせるために頑張っている世代の人たち自身がすでに社会の一員であり、社会を構成して役に立っていることを実感しながら、自己肯定感やその価値を見える化していくことが重要ではないでしょうか。

<加藤委員>

私も生涯学習を「届ける」というところに違和感を持っておりました。今のお話を伺いながら、生涯学習ビジョンにも成長という言葉が使われているので、「生涯学習を通して働く世代の市民の成長を目指して」とか、成長という視点が入ると良いのではないかと思います。

また、「働く世代」と言うと何となく働いている人でなければならないイメージがあります。先ほどの国の答申を見ると「社会人の学び直し」という内容があるので、働いていてもキャリアアップのために学びたい、あるいは今は働いてないけれどキャリアをつけて仕事につなげたいという人に向けた視点も入ると、働く人たちが輝くことに資するのではないかと考えました。

もう1点、先ほど目標ある程度定めた方がいいというお話がありましたが、数値目標で測るよりは、先ほどの提言にもロールモデルという話があったので、今回私たちが目指しているものをモデルとして示せると良いのではないかと思います。

<議長>

「届ける」という表現へのご意見をいただきました。事務局としても「届ける」に込めた思いはおそらく同様かと思います。第11期もどうやって多くの市民に生涯学習ビジョンを理解していただいて学びの循環に入ってもらおうかという議論があり、その意味で「届ける」という表現が使われたのでしょうか。しかし、おっしゃるように自分がやっていることと生涯学習は別のもので、それは届けられる、与えられるものというイメージを持たれることは確かにありますので、表現を工夫していきたいと思います。

また「働く世代」という定義も現在かなり多様化しております。現実に働いている人もいれば、働くことと何かを両立されている方、働くための準備をしている方などもありますので、このイメージも、議論を通して具体化していきたいと思います。

<事務局>

皆様のご意見を反映し、さらに議論を重ねる中で最終的な表題を決定していきたい

と思います。また、次回会議までの間に、メール等で皆様のご意見をお伺いいたしますので、ご協力をお願いいたします。

<吉沢委員>

様々なご意見が出た中で、今川委員のおっしゃったことに共感しました。

社会の構造が変容する中で、企業内でもリスクリングが行われていて、例えばコーポレート・ベンチャー・キャピタルのように、起業してリスクリングした内容を自分で生かしていこうという話もあります。これは企業としても個人としても利益につながる話なので、モチベーションの高め方があるかと思います。

一方でまさに今川さんのおっしゃったような自己肯定感や、社会に関わるという生涯学習のモチベーションのあり方は非常に次元が高く、そこに直接的な利益はありません。私の地元の自治会コミュニティには各地区の運動会があるのですが、私がいる自治会が16連覇くらいしています。なぜそんなに強いのかというと、働く世代の人たちがコミュニティの輪に知り合いをどんどん入れてくるからだと思います。やはりコアになる人がいて、まさに今川委員おっしゃったことを体現していると感じました。

こういうつながりを非常に大事だと思ったときに、「届ける」というよりもむしろ生涯学習に「馴染む」ためにという視点が大事なのかと思った次第です。

<議長>

ぜひそのコミュニティの秘訣をお聞きしたいところです。

テーマの表題には検討の余地があると思いますが、考えていく題材としては皆様の合意が得られましたので、それも含め進めていきたいと思います。

本日も活発な議論いただきましてありがとうございました。次回は具体的な課題と、それから進め方として、例えば視察先のアイデア等も含めご意見いただきたいと思います。

6 連 絡

さいたま市生涯学習フェスティバル及びさいたま市生涯学習学びのネットワークについて、実施内容を報告した。

7 閉 会

以上

第 12 期さいたま市社会教育委員会議の協議内容について

1 協議テーマ 「働く世代の生涯学習と、地域活動への橋渡し」

2 協議課題の設定

協議課題は、委員提出意見をもとに設定し、ワークショップや視察における話し合いの軸として活用する。

・働く世代 が (を)

- ① 求める生涯学習像とは
- ② 生涯学習に触れる機会を知るためには
- ③ 生涯学習を身近に感じるためには
- ④ 参加したいと思う取組とは
- ⑤ 生涯学習や地域活動に興味を持ってもらうためには
- ⑥ 生涯学習の情報を届けるためには
- ⑦ 生涯学習に結びつかないのはなぜか。結びつくことで得るもの・失うものとは
- ⑧ 生涯学習に取り込むためには

⇒ 協議課題(1) 働く世代が生涯学習を身近に感じるきっかけづくり

・働く世代 が

- ① 地域社会における居場所を発見するためには
- ② 世代を超えた参加とつながりを実感するためには
- ③ 生涯学習や地域活動に参加しやすくするための工夫
- ④ 生涯学習を通じた地域活動に参画する過程(プロセス)はどのようなものか
- ⑤ 生涯学習を通じた地域活動に関わるネットワーク(市民同士/団体同士のつながり)はどのようなものか。
- ⑥ 生涯学習を通じた地域活動を促進するために、どのような仕組みが有効か
- ⑦ 地域社会と関わるきっかけは、どのようなものが多いのか。

⇒ 協議課題(2) 働く世代が地域活動につながる仕組みづくり

3 ワークショップ・視察の進め方

(1) 事業を知る

担当者から直接、事業の現状や課題を確認する。



(2) 話し合い

グループに分かれ、事業について協議課題に基づいた話し合いを行う。



(3) 発表・まとめ

話し合いの結果を発表し、まとめを行う。



4 ワークショップ・視察先案

(1) 行政関係 資料1別紙

- | | |
|--------------------------|----------------------|
| ① チャレンジスクール | (生涯学習振興課) |
| ② コミュニティ・スクール | (生涯学習振興課) |
| ③ 公民館事業(親の学習事業、さいたま市民大学) | (生涯学習総合センター／公民館) |
| ④ さいたま市シニアユニバーシティ | (高齢福祉課) |
| ⑤ 芸術文化活動 | (さいたま国際芸術祭実行委員会) |
| ⑥ 彩の国環境大学 | (埼玉県 環境科学国際センター) |
| ⑦ 埼玉職業能力開発促進センター | ((独)高齢・障害・求職者雇用支援機構) |

(2) 民間団体・企業等

- ① 独立系書店(本を媒介とした居場所づくり, つながりづくり, 店主の意図や思い)
- ② 働く世代が活躍するNPO団体
- ③ 企業内研修でボランティア活動を推進している企業
- ④ 放送大学埼玉学習センター
- ⑤ 地域おこし協力隊
- ⑥ 働く世代が集まる場所や、サークル活動

ワークショップ・視察先案（行政関係）

①	名 称	チャレンジスクール推進事業
	所 管	生涯学習振興課
	対 象	市立全小・中学校の児童生徒
	概 要	<ul style="list-style-type: none"> ・ チャレンジスクールは、学校の教室等を利用し、地域住民・保護者・学生などのボランティアにより運営されています。 ・ 土曜日に子どもたちの自主的な学習や体験活動を行う「土曜チャレンジスクール」と、放課後に学習・スポーツ・文化活動・地域住民との交流活動等を行う「放課後チャレンジスクール（小学校のみ）」を実施しています。

②	名 称	コミュニティ・スクール推進事業
	所 管	生涯学習振興課
	対 象	全学校と地域住民
	概 要	<ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニティ・スクールとは、学校と地域が連携して子どもたちをはぐくむ仕組みを生かし、地域の高い教育力を生かした学校運営や教育活動を実現するために学校運営協議会を設置した学校を指しています。 ・ 学校運営協議会は、学校運営及び当該運営への必要な支援に関して協議する機関です。学校運営協議会を通じて、地域住民、保護者等の学校運営への参画や学校運営への支援及び協力を促進することにより、学校が地域住民、保護者等との信頼関係を深め、学校運営の改善及び児童生徒の健全育成に取り組んでいます。 ・ さいたま市では地域と学校の従来からの連携・協働体制を基盤として地域を創生する「地域学校協働活動」とコミュニティ・スクールを一体的に推進しています。

③	名 称	公民館事業
	所 管	生涯学習総合センター／公民館
	対 象	さいたま市民（詳細は事業ごとに設定）
	概 要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 親の学習事業 親同士が自分自身や子育てを改めて考え、学びを通して親として成長することを目的としたワークショップ形式の参加型学習です。 ・ さいたま市民大学 市民の高度で専門的かつ多様な学習要求に応えるとともに、自発的な学習活動を促し、豊かな生涯学習社会を築くことを目的とした事業です。

※ 公民館で行われる事業は、公民館運営審議会によって調査審議されています。

④	名 称	さいたま市シニアユニバーシティ
	所 管	高齢福祉課 セカンドライフ支援センター
	対 象	60 歳以上のさいたま市民
	概 要	<ul style="list-style-type: none"> ・さいたま市シニアユニバーシティでは、1 年間の大学及び大学院での講義を通じて、心身の健康増進、地域での仲間づくり、生きがいづくりを目指します。また、地域社会で活躍できる人材育成に取り組んでいます。 ・講義外でも、自主的にクラブやボランティア活動に取り組んでいます。 ・希望者は、卒業生で結成された自主運営団体（シニアユニバーシティ校友会連合会）へ加入し、地域活動を継続することが可能です。

⑤	名 称	芸術文化活動（さいたま国際芸術祭）
	所 管	さいたま国際芸術祭実行委員会
	対 象	さいたま市民、参加アーティスト等
	概 要	<ul style="list-style-type: none"> ・文化芸術を活かした地域の活性化や都市の魅力向上を目指し、文化芸術都市としてのさいたま市を創造するため、国内外のアーティストと共に展開する事業です。 ・市民と市民、市民とアーティスト、アーティストと地域が交流する機会を創出する「共につくる、参加する」市民参加型の「さいたま国際芸術祭 2023」を、令和 5 年 10 月 7 日(土)から 12 月 10 日(日)まで、市内で広く開催しました。

⑥	名 称	彩の国環境大学
	運 営	埼玉県 環境部 環境科学国際センター 〒347-0115 埼玉県加須市上種足 914
	対 象	埼玉県内に在住、在勤又は在学の 18 歳以上の方で、地域で環境保全活動や環境学習活動を行う意欲のある方。
	概 要	<ul style="list-style-type: none"> ・彩の国環境大学は、県民が人間の活動と環境の関わりについて理解を深め、環境に配慮したライフスタイルや社会経済システムを確立していくための学習の場であるとともに、循環型社会の構築に向けて地域で環境保全活動や環境学習活動を行うリーダーを育成することを目的としています。 ・基礎課程では環境問題全般について基礎的な内容を、実践課程では専門的な知識や地域で活動する指導者を養成するために必要な知識や手法を学びます。

⑦	名 称	埼玉職業能力開発促進センター（ポリテクセンター埼玉）
	運 営	独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構 埼玉支部 〒336-0931 埼玉県さいたま市緑区原山 2-18-8
	対 象	求職者・在職者・事業主
	概 要	<p>職業能力開発促進センターは、求職者や在職者を対象にした短期間の職業訓練を行う公共職業能力開発施設で、国・都道府県、認定職業訓練を行う事業主等が設置しています。</p> <p>雇用のセーフティネットとして、離職者のスキル取得を目指した早期再就職のための職業訓練や、事業主を対象とした人材育成支援及び求職者支援訓練の相談等を実施しています。</p>

意見提出用紙まとめ

委員氏名		石川 敬史 委員	今川 夏如 委員	加藤 美幸 委員
1 第12期協議テーマについて	(1) テーマの表題案	<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習（学び）を通して、地域とのつながり（参加）の発見へ 生涯学習（学び）を通して、働く世代（成人）が地域社会への参加を実感するために 	<ul style="list-style-type: none"> 働く世代の市民が実感できる生涯学習のあり方を考える 	<ul style="list-style-type: none"> 働く世代が取り組む生涯学習の方向性 働く世代の生涯学習の在り方 働く世代の学びとその充実のために
	(2) 表題設定の理由	<p>「学びの循環」を考えますと、確かに「届ける」という表現ではないように感じました。</p> <p>学びや成長を実感すること、このことは、「個」や「私」に留まる学びや成長ではなく、地域社会への「参加」と「つながり」があることを発見する、という方向性なのではと思いました。</p>	<p>働く世代の、仕事や暮らしの中での成長そのものが、まちや社会全体の成長に資する生涯学習そのものであり、地域社会の中で、自己実現や、人の輪を広げ、地域社会の発展につながることを実感してもらえ生涯学習のあり方を考えたい。もっと端的に表現できるとなお良い。</p>	<p>働く世代がなぜ学ぶ（生涯学習に取り組む）のか。「生涯学習」と言ってしまうと、自分事として捉えにくいかも知れない。これからの、とりわけ働く世代の生涯学習は、従来の生涯学習の価値について拡張して考える必要があると考えたため。ボランティア的なものから、利益を生み出せるものなど。</p>
2 課題の設定について	(1) 課題案	<ul style="list-style-type: none"> 働く世代（市民）が地域社会における居場所を発見するためには 働く世代（市民）が世代を超えた参加とつながりを実感するためには 	<ul style="list-style-type: none"> 市民が地域社会と関わるきっかけは、どういうものが多く、きっかけとなりやすいのか。 市民が様々な分野（趣味やスポーツ・芸能など）で他者と関わり人間関係が広がる機会を得るために、どうすることが良いか 自治会や、管理組合などの取り組みで、成功例などから得られるものはないか 	<ul style="list-style-type: none"> 働く世代の生涯学習の現状～国、県などの調査結果～ 本審議会がターゲットにする働く世代の範囲～何歳から何歳まで？又はいくつかに分けて比較～ 働く世代の学習ニーズ～インタビュー・アンケート作成・実施～
	(2) ワークショップ・視察先案	<ul style="list-style-type: none"> 独立系本屋（本を媒介とした居場所づくり、つながりづくり、店主の意図や思い） チャレンジスクール？（世代をこえた学びあいの形成） 芸術、文化、表現・創作、演劇、おはなし会の活動？ 	<ul style="list-style-type: none"> 働く世代が集まる場所や、サークル活動などがあれば、お話を聞いてみたいです。 	<ul style="list-style-type: none"> 企業内研修でボランティア活動を推進している企業 放送大学埼玉学習センター さいたま市職業能力開発促進センター 地域おこし協力隊 横瀬町と隊員
	(3) (1)及び(2)設定の理由	<p>場や環境があることで、結果として学びが形成され、つながりも形成され、地域社会への参加にも結びつき、そして地域の文化創造へとつながっている、という「学びの循環」が形成されている（萌芽的に形成されつつある）現場の現状や課題を実際に視たいと考える。</p>		<p>まずは、現状分析、次に、ニーズを把握すること、さらに、先進的取組や連携・協働できそうな機関について、その概要やその誕生について知り深く学ぶことが必要だと考えたため。</p>
3 その他		<p>視察とともに、可能であれば、前期と同様にワークショップもあると良いと思いました。</p>		<p>ワークショップや事例研究、キャリア支援のマッチングアプリなどの体験</p>

委員氏名		小林 玲子 委員	佐野 操 委員	澁谷 知範 委員
1 第12期協議テーマについて	(1) テーマの表題案	<ul style="list-style-type: none"> 働く世代の市民に求められる生涯学習を届けるために 働く世代に生涯学習による「地域との絆」を知ってもらうために 	<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習が今の働く世代に寄り添うかたちとは 	<ul style="list-style-type: none"> 働く世代の市民が生涯学習を通じ、地域活動への参加を促進するために
	(2) 表題設定の理由	<p>生涯学習予約システムの導入により、私が登壇させていただいている講座では、システム導入前と比較すると、より若い方の参加が増えている印象を受けております。（ここで言う「より若い方」が「働く世代」なのかは、講師としてはわかりかねますが、たとえば今年度私が担当させていただいたさいたま市民大学の「Excel MOS 講座」では、10代から80代の幅広い世代の方々にご参加くださいました）。この観点からさいたま市が提供する生涯学習が、幅広く市民の方に届き始めていると考えられ、今後はいかにより働く世代にお届けするのかを考えると共に、働く世代の市民の方に求められる講座や企画を見極めてご提供する必要性もあるのではないかと考えます。働く世代の中には、たとえば日常的にSNS 発信等していらっしゃる方もおり、より魅力的な生涯学習をお届けすることによって、相乗効果が生まれる可能性もあるのではないかと思います。</p> <p>また、こういった相乗効果を通して、同じ趣味や課題を持つ働く世代の市民同士がコミュニティーを形成し、世代間交流や地域への参加・貢献につながれば、さらなる「さいたま市生涯学習」の浸透に繋がるのではないかと考えます。</p>	<p>働く世代の多くは納税者であるため、その還元（応える）としての生涯学習の場という観点から考えていくと、「今の働く世代に寄り添うかたちとは」に至った。</p> <p>まずは、今の働く世代の方の現状とニーズを知ることから始めてはいかがでしょうか？</p>	<p>地域活動に参加している者の割合は、60～70代と比較し、50代以下の働く世代は一般に低い傾向にあるとされます。働く世代もいずれ退職することより、地域社会において人間関係の構築が円滑にいかなければ、社会的な孤立状態に置かれるリスクもあります。生涯学習を通じ、働く世代の人々を早期より地域社会に包摂することは喫緊の課題と考えます。</p>
2 課題の設定について	(1) 課題案	<ul style="list-style-type: none"> 働く世代の市民が生涯学習や地域活動に対して興味を持ってもらうためには 働く世代の市民が生涯学習の情報を届けるためには 	<ul style="list-style-type: none"> 今の働く世代が生涯学習に結びつかないのはなぜか？また、結びつくことで得るもの失うものとは何か？ニーズに寄り添うための場の提供のかたちと課題を探る。 働く世代のチャレンジスクールのボランティアから学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> 働く世代の市民が生涯学習を通じた地域活動に参画する過程（プロセス）はどのようなものか。 働く世代の市民の生涯学習を通じた地域活動に関わるネットワーク（市民同士/団体同士のつながり）はどのようなものか。 働く世代の市民の生涯学習を通じた地域活動の促進のために、どのような仕組みが有効か。
	(2) ワークショップ・視察先案	<ul style="list-style-type: none"> さいたま市民大学（より多くの働く世代が継続的に参加している講座の分析・視察） 働く世代が生活面や子育て面で関連するNPO 団体の視察・ヒアリング 	<ul style="list-style-type: none"> さいたま市の親の学習市民ファシリテーターに協力を仰ぎ、まずはファシリテーター目線で課題のワークショップを開催し、私たちも参加者として参加するのはどうか？ その後、働く世代の皆様を募集して親の学習ファシリテーターに技術提供（進行）をお願いしてワークショップを開いてはどうか？（対象には消防団の方、PTA、育成会、チャレンジスクールの支援者も含む） チャレンジスクールのボランティア体験等 	<ul style="list-style-type: none"> さいたま市の具体的な事業、団体を存じ上げませんが、働く世代向けに、下記のような事業・団体等あれば、ワークショップ・視察等を希望します。 <ul style="list-style-type: none"> - 埼玉県「彩の国環境大学」。地域で環境保全活動や環境学習活動を行うリーダーを育成することを目的に開講。修了後は“修了生の会”を通じて、自然観察会や化学物質ウォッチング等の活動を実施。（生涯学習を契機に、学習後の継続的な地域活動を促進する事例として、関心を持ちます。） - (シニア世代向けであるものの)さいたま市「シニアユニバーシティ」。卒業生が校友会組織を作り、継続的な地域活動等を展開。（さいたま市民大学は、働く世代も対象としています。シニアユニバーシティのように校友会等の活動事例があれば、お話を伺いたいと思います。）
	(3) (1)及び(2)設定の理由	<p>働く世代は、シニア世代等に比べると時間的余裕がありません。限られた時間の中で、生涯学習に参加してもらうためには、やはりニーズを見極め、参加することへの意欲やメリットが必要なのではないかと考えます。たとえば、講座を企画する際にも、主催側の思い込みだけでは集客が難しいのと同じで、いかにターゲット層に刺さる講座を企画することかが重要だと考えます。</p>	<p>市民ファシリテーターは生涯学習のビジョンそのものであり、個々のリソースも素晴らしく意識も高い。何よりも働く世代の方が多く。また、ファシリテーターとして今の働く世代の保護者と直接かかわっているので、今の働く世代の意識、課題を触れていること、ワークショップの技術に長けていること等が理由である</p> <p>働く世代の方とのボランティア体験を通してコミュニティの輪を実際に感じてみることに。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習を通じた地域活動に参画する過程（プロセス）を分析することで、生涯学習/地域活動の無関心層に対するどのようなアプローチが効果的かの示唆を得たいため。 生涯学習を通じた地域活動に関わるネットワーク（市民間/団体間のつながり）は、“浅く広い” / “深く狭い”等、どのような特徴があるかを明らかにし、生涯学習/地域活動の促進に向け、どのような支援策が期待されるか示唆を得たいため。
3 その他		<p>委員会も生涯学習のビジョンに沿うことが大切だと感じるのでお互い意見の原点を知るために、ワークショップ形式でもよいかと考えます。</p>	<p>委員会も生涯学習のビジョンに沿うことが大切だと感じるのでお互い意見の原点を知るために、ワークショップ形式でもよいかと考えます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「働く世代」について、具体的な年代等の定義が必要だと思います。単純な年代で区切るのか、就労状況は問わないのか（家事労働者を含むか）等を定めることで、より円滑な協議に結び付くように思います。

委員氏名		関根 広美 委員	鶴ヶ谷 柊子 委員	永井 正 委員
1 第12期協議テーマについて	(1) テーマの表題案	<ul style="list-style-type: none"> ・私のための生涯学習 ・コレが知りたかった！！～生涯学習で気づきからスタート～ 	<ul style="list-style-type: none"> ・働く世代の市民が生涯学習を通してつながるために 	<ul style="list-style-type: none"> ・働く世代を含めたすべての市民が生涯学習にふれあうために
	(2) 表題設定の理由	<p>自分事として知ってもらうために、関心のあることから参加してもらい、そこをスタート点として生涯学習や地域での自分の問題解決につなげる。そこからさらなる多方面の広がりにつなげる。</p>	<p>前回の会議録より、子育てをしながら働く世代の生涯学習への参加だけでなく、地域社会へのつながりの希薄さが問題であることが感じられたため。また、年齢層によっては生涯学習を通して地域社会とつながる実績があることも報告されていたため。</p>	<p>働く世代だけではなく、すべての市民をターゲットにしたことと生涯学習を自然にふれあってほしいとの願いをこめて。</p>
2 課題の設定について	(1) 課題案	<ul style="list-style-type: none"> ・働きながらの子育て ・働きながらの介護 ・40歳からはじまる介護保険負担って？～介護保険を知る～ ・関心ごとのスキルアップ・深ぼり ・災害時の地域とのかかわり方 	<ul style="list-style-type: none"> ・働く世代の市民が求める生涯学習像とは 	<ul style="list-style-type: none"> ・働く世代の市民が生涯学習を身近に感じるためには ・働く世代の市民を取り込むためには
	(2) ワークショップ・視察先案	<ul style="list-style-type: none"> ・自主的に避難訓練を実施している自治会（土合社協など） ・子育て支援NPO、介護支援NPO、市民後見人に関するNPOと該当する行政の担当課 <p>団体、具体的にわからなくてすみません。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援施設 ・週末や終業後の時間に活動を行っている団体 	<ul style="list-style-type: none"> ・土曜日或いは日曜に開催される公民館講座等
	(3) (1)及び(2)設定の理由	<p>働く世代は、生活に経済的なゆとりや自分のために使える時間が少ないと思われる。日々いっぱいの中で、他のことに興味を持つとしたら自分の困り事かとも関心のある事。その中で想像できるのが、子育てや介護などによる孤立や知識不足。そこを少しでも解消できることで地域や社会とのつながりを実感でき社会参加が進むのでは。</p>	<p>前回の会議録より、子育てに関連した生涯学習は比較的進んでいることや週末に行われている活動に若い世代の参加が見られることが示されており、子育てをしながら働く世代が求める生涯学習とはどのようなものであるかについて検討を行うために参考になるのではないかと考えたため。</p>	<p>まずは現状把握が必要だと思います。</p>
3 その他				

委員氏名		林 弘樹 委員	藤田 成司 委員	吉沢 浩之 委員
1 第12期 協議テーマ について	(1) テーマ の表題案	・「共に生きる、学びの場をつくる」～その為のきっかけと仕組みづくりを～	・働く世代の市民が生涯学習で学んでいくために	・働く世代の市民が生涯学習に馴染むために
	(2) 表題設 定の理由	別紙	学校行事やPTA活動への保護者の参加の状況を見ていると、父親の参加数が以前と比べてだいぶ増えている。このことから、両親とも環境と内容が整えば、生涯学習に関わっていく機会が増えていくのではないかと考えるから。	人々が生涯に行うあらゆる学習（学校、家庭及び社会教育並びに文化、スポーツ、レクリエーション及びボランティア活動 等）という意味から適切ではないかと・・・
2 課題の 設定につい て	(1) 課題案		・働く世代の市民が参加したいと思う取組とは ・働く世代の市民が生涯学習や地域活動に参加しやすくするための工夫	・働く世代の市民が生涯学習に触れる機会を知るためには
	(2) ワーク ショップ・ 視察先案		・具体的に思いつきませんが、働く世代の市民が積極的に活動している場所や取組をしている所	
	(3) (1)及び (2)設定の理 由			「生涯学習」という言葉だと切り口が広くボンヤリしてしまう印象だが、様々な分野で入口は多岐にわたると思うので、接触の機会も多様と思われることから。
3 その他				

林 弘樹委員 1 - (2)

一回目の議事録を読んで、非常に良い視点で話されていると感じました。僕も第一印象として、「働く世代の市民に生涯学習を届けるために」というテーマ自体はいいかもしれないなと思っていました。ただ、人生100年時代と謡っていながら、ここでいう「働く世代」と指しているのは、20世紀的な意味合いに感じられるかもしれないなとも思いました。多分、事務局の方々が案として出してくれた背景としては、「仕事に忙しくて余裕がない、生涯学習なんて自分には関係ない」と思っている人々へも、体験してほしい、届けたいと思って出されたのだろうと察します。そういう視点でみると当初案は良いなと感じます。そして、生涯学習を推進していこうという意味において、「ちゃんと届かなければ意味がない」という意味において「届ける」という意図にも賛同したいと思います。

また、「今まで行政がサポートする生涯学習」に興味関心がない人でも、「仕事に役立つ学び」や「人生を本当に豊かにしてくれるもの」だと体験して感じてもらえれば、その意義や意味の素晴らしさにも気づくのだろうとも思いました。

以上の点を踏まえ、まずは生涯学習という言葉を使わないでテーマ設定が出来ないかと考え、上記のテーマ案を出させていただきました。

参考にしたのは、佐野委員、今川委員、吉川委員の発言にありまして、それに自分自身が生涯学習に参加した時に感じた体験が元になっております。

まずは今川委員の「生涯学習とは生き方そのもの」だという視点です。非常に納得します。

ただ、興味関心がない方々にとって（仕事が忙しく、行政手動のものは役に立たない、生涯学習は福祉の一環だろうと思われるかもしれない方々）、「生涯学習」という言葉に今川委員の言う生き方そのものだというイメージを全く持たれていないのだろうと推察します。

そうであるならば、行政手動の生涯学習という言葉自体に不信感や違和感を持たれているのかもしれない。

であるならば、個人としての「生き方そのもの」と捉えられるように、また地域に生きる人間として、関わり合いを通じて、（困難な時代を）共に生きる時に必要なものとして掲げてみてはどうかと思ひ、仰々しいかとは思いましたが、まず「共に生きる」という大きなテーマを前面に出してみました。

次に「共に学ぶ」という点ですが、生涯学習ビジョンのつながりづくり・地域づくりという視点に繋げないと行政が推進する学びとしては片手落ちだと考えました。さらに学びの中での喜びは、自分の生涯学習体験（写真サークル）としても感じたことですが、独りでも出来るけれど、独りでは味わえない体験を共に学ぶことで得られたからです。そして結果として、それは地域の思わぬつながりが出来たりすることになっています。

最後に、ではどうしたら興味のない方々に「生き方そのもの」だったり、共に学ぶ喜びをわかってもらえるのかと考えまして、きっかけと「場づくり」の重要性を議論しても良いと感じました。これは佐野委員や吉川委員の発言をヒントにしました。

まず佐野委員の土曜チャレンジの話ですが、うちの子供たちも参加していて「興味のないこと」も学んでみると面白い！と毎回帰ってきます。保護者として見学していても同様に感じるのですが、これは土曜チャレンジという仕組みの妙が「きっかけ」を与えてくれているということ。また子供がい

るから参加してみたという保護者としても「きっかけ」の場があったから体験できたことです。同様に、学童保育の中でも様々な学びと体験の機会があるのですが、これも元々は本人たちの興味関心があって参加したわけではなく、「やってみて楽しさがわかった」という点にあると思います。そういった意味で「まず参加してみる、そのためのきっかけの場づくり」が大事だと感じています。

さらに、吉川委員の企業内における実践と体験、学びの場である「コーポレート・ベンチャーキャピタル」というのも参考になるなと感じました。これは実利というものがわかりやすい点もありますが、土曜チャレンジや学童と同じように、元々個人単体ではやらなかったかもしれないことを「体験してみてもわかること、得られるもの」が大きいのではと思いました。多分、働く世代に向けて届けるとあえてターゲットされるように、働く世代は生涯学習なんて実利が得られない、そんな暇はないというイメージがあって「きっかけすら得られない」ということがあるかと思います。

最後に、実際に自分がいくつかの市内の生涯学習サークルに参加してみて感じたことと、さいたま市以外の地域づくりにずっと関わってきた中で感じていることを紹介させてください。

まず自分が興味関心のある生涯学習の分野の中で、実際に住んでいる地域の近くでその活動に合うサークルなどに出会うことが難しいという点。例えば、活動時間が働いていると参加出来ないものが余りに多いこと（メンバーがリタイアされた方が多く、その人たち中心になって活動時間や場所が設定されていること）。

また、僕が実際にサークルや団体をリサーチしている中で、そのサークルなどが実際どんな人たちが、どのように活動されているかの情報が見えにくいと感じられ、興味があってもいざ連絡をして参加してみても、輪に入りにくい感じがありました。

これは沖縄をはじめ、各地で地域づくりに関わってきた妻からも言われたことで、さいたま市の場合は、地域づくりに関わっているキーパーソンなどの顔がみえないという点も同様な、入りづらさにつながっているかもしれないなと思った点でした。

そういった意味において、いかに「きっかけづくり」や「顔の見える参加しやすい仕組み」などの重要性が、生涯学習の推進において大事だと思い、議論していただけたらと思った次第です。まずやってみることが出来る、そのきっかけが掴みやすい、そしてやってみたら自分のことのみならずもつと役に立ちたいと思う人も多いのではないのでしょうか。そういった点で、吉川委員の地域の運動会の事例や、土曜チャレンジや天体観測などの事例は、「きっかけの場づくり」や「仕組みづくり」、やりがいにつながる「まさに生涯学習は生き方そのもの」という今川委員の意見にもつながっていくのではないかと考えます。

働く世代の生涯学習の現状（アンケート）

資料 3

1 内閣府 生涯学習に関する世論調査（令和4年実施）

※対象者：無作為抽出 3,000人 有効回答数：1,557人（18～59歳：876人）

番号	質問	回答1	回答2	回答3	回答4	回答5
1-1	あなたは、この1年くらいの間に、月に1日以上 <u>どのようなことを学習</u> しましたか。	仕事に必要な知識・技能や資格に関すること 53.7% (全体：40.1%)	健康やスポーツに関すること 28.0% (全体：31.3%)	料理や裁縫などの家庭生活に関すること 26.2% (全体：23.1%)	音楽や美術、レクリエーション活動などの趣味に関すること 24.5% (全体：22.9%)	学習していない 20.4% (全体：24.3%)
1-2	学習していない理由は何ですか。	仕事や忙しくて <u>時間がない</u> 43.0% (全体：27.5%)	きっかけがつかめない 30.2% (全体：29.1%)	特に必要がない 26.2% (全体：45.5%)	家事・育児・介護などが忙しくて時間がない 25.7% (全体：15.6%)	学習するための <u>費用がかかる</u> 20.1% (全体：14.0%)
1-3	学習した <u>成果</u> をどのように生かしていると思いますか。あるいは生かせると思いますか。	仕事や就職の上で生かしている、または生かせる 68.2% (全体：54.0%)	家庭・日常生活に生かしている、または生かせる 53.7% (全体：53.2%)	自分の人生を豊かにしている、または豊かにできる 50.9% (全体：53.8%)	健康の維持・増進に役立っている、または役立てられる 35.9% (全体：43.2%)	地域や社会での活動に生かしている、または生かせる 10.5% (全体：14.6%)
1-4	あなたは、 <u>地域や社会</u> でどのような活動に参加してみたいと思いますか。	子育て・育児を支援する活動 26.1% (全体：20.0%)	地元の観光や産業の活性化に貢献するような活動 23.1% (全体：19.7%)	スポーツ・文化活動 22.9% (全体：21.6%)	地域の環境保全に関する活動 17.7% (全体：20.9%)	地域や社会での活動に参加したいとは思わない 20.6% (全体：20.6%)

2 内閣府 市民の社会貢献に関する実態調査（令和4年実施）

※対象者：無作為抽出 8,200人 有効回答数：3,170人（20～59歳：1,886人）

番号	質問	回答1	回答2	回答3	回答4	回答5
2-1	2021年（令和3年）にあなたは、 <u>どのような分野</u> のボランティア活動に参加したことがありますか。	子ども・青少年育成 35.3% (全体：25.0%)	まちづくり・まちおこし 29.7% (全体：25.6%)	地域安全 24.7% (全体：22.1%)	保健・医療・福祉 23% (全体：19.5%)	芸術・文化・スポーツ 21.9% (全体：17.3%)
2-2	2021年（令和3年）にあなたがボランティア活動に参加した理由は何ですか。	社会の役に立ちたいと思ったから 63.9% (全体：59.1%)	自己啓発や自らの成長につながると考えるため 43.8% (全体：34.3%)	自分や家族が関係している活動への支援 36.1% (全体：25.4%)	職場の取組の一環として 20.4% (全体：11.4%)	知人や同僚等からの勧め 12.8% (全体：11.4%)
2-3	ボランティア活動への参加の妨げとなることはありますか。	参加する時間がない 69.4% (全体：45.3%)	ボランティア活動に関する十分な情報がない 54.7% (全体：40.8%)	参加するための休暇が取りにくい 36.8% (全体：22.1%)	参加する際の経費（交通費等）の負担 32% (全体：23.1%)	参加するための手続きがわかりにくい 27.4% (全体：21.2%)

3 埼玉県 第217回アンケート「生涯学習活動について」（令和4年実施）

※対象者：県政サポーター 3,300人 有効回答数：2,136人（16～59歳：1,293人）質問ごとの年代内訳は不明

番号	質問	回答1	回答2	回答3	回答4	回答5
3-1	あなたは、この1年くらいの間に <u>どのような生涯学習活動</u> をしましたか。	趣味に関するもの 37.5%	スポーツ・健康に関するもの 32.7%	教養的なもの 32.6%	芸術・文化に関するもの 22.3%	生涯学習活動をしなかった 24.0%
3-2	あなたがこの1年くらいの間に <u>生涯学習活動をしなかった理由</u> は何ですか。	仕事や忙しくて時間がない 35.6%	家事・育児・介護などが忙しくて時間がない 22.7%	きっかけがつかめない 20.3%	学習したい内容が見つからない 18.0%	身近なところに学習する場・環境がない 16.7%
3-3	あなたは、これまでの生涯学習活動で <u>学んだ知識や技能、経験等</u> をどのように生かしていますか。	人生が豊かになっている 67.8%	健康の維持・増進に役立っている 46.9%	過程や日常生活に生かしている 40.0%	仕事や就職の上で生かしている 38.6%	地域や社会での活動に生かしている 22.3%